

こんな声かけで投資信託での資産形成ニーズを喚起しよう

積立投資信託での資産形成に関心を持ってもらうためのアプローチとトーク例を紹介する。

声かけ1



投資信託という商品をご存知ですか
積立という形でも購入できるんですよ

金のような元本保証商品ではなく、運用におけるリスクが存在する。リスク軽減のために有効となるのは分散投資と長期投資といえる。投資信託を提案するのであれば、分散・長期投資の効果により高めてくれる積立の活用を合わせて案内してみよう。

目的をイメージしてもらおう

お客様に積立を勧める前に、まずは「何のために積立を始めるのか」という目的をイメージしてもらおうことが重要だ。

「新しい車を買いたい」「ゴルフクラブを買いたい」など、様々な目的があるだろう。目的が定まっていれば、積立に回す資金を具体化するために、お金の色分けを行ってもらうとよいかもしれない。

お客様には、生活費など毎日必要なお金と、急な出費の際にいつでも引き出せる予備的なお金を合わせた「流動性資金」、

住宅購入の頭金や教育費といった長期的に確保していく「安定性資金」、使う予定のない「余裕資金」の3種類にお金を色分けしてもらおう。このうちの「安定性資金」と「余裕資金」が積立に向いていることを説明してみよう。

こんなトークでニーズ喚起

担当者「お客様はしばらく使う予定のないお金を貯めて、将来お車を購入されたいとのことですね。それにあたって、投資信託という商品をご存知ですか？実は積立という形でも購入できるんですよ」

お客様「知っていますが、投資信託は損する可能性があるんですよね？」

担当者「確かに預金などとは違い元本保証の商品ではございません。ただ、積立であれば、リスクを抑えながら、預金より効率的な資産形成が期待できるんですよ」

声かけ2



将来に向けていまきちんと貯蓄をされていますか

貯

蓄率は可処分所得に対する預貯金増額分の割合で示されるが、OECD（経済協力開発機構）の統計によると、日本の貯蓄率は1%にも満たないという。

長引く低金利下では、貯蓄に前向きになれないのも無理はない。しかし、大きなお金が必要となるであろう将来の目的はどれも抱えているはずだ。その目的の実現に使えるツールとして、積立投資信託の活用を提案したい。

三つのメリットを紹介

積立投資信託のメリットは大きく三つある。

一つ目は、少額から投資が可能であること。例えば、株式を個別に購入する場合は1単元（100株など決められた株数）を買い付ける必要があるが、まとまった資金がなければ投資できない。一方、積立投資信託は1万円程度の少額から投

資が行えて、毎月継続して購入できる。

二つ目は、様々な資産に、効率よく分散投資ができること。

投資信託はリスク商品なので元本は保証されない。しかし、株式、債券、不動産、コモディティなど豊富な資産に投資でき、世界の多くの国々の通貨にも分散できる。そして積立を活用することにより、購入機会を一度に集中させることができ、さらなるリスク分散が図れる。

三つ目は、手間がかからないことである。口座引落しを申し込めば、毎月自動的に投資信託を購入し、勝手に積立投資を進めてくれる。加えて、インターネットバンキングでは積立金額

POINT

- 大きな額が必要となる将来のイベントを話題に出して、貯蓄の必要性を認識してもらう
- 積立投資信託であれば、リスクを抑えつつ、効率的な資産形成が期待できる点を説明する

の増額や停止、解約まで、パソコンやスマホで簡単に行える。こうした点を紹介してニーズ喚起につなげていこう。

こんなトークでニーズ喚起

担当者「将来に向けていま貯蓄はされていますか？」

お客様「ある程度の余資は確保していますが、長い目で見た貯蓄はできていないですね…」
担当者「マイホームの頭金やお車の購入など、将来まとまった額が必要となるイベントに向けて、積立を行う方も増えていきます。しかも積立投資信託なら効率的な資産形成が期待できます。三つのメリットをご紹介しますね」